
 塩治
地区

社会福祉協議会便り

編集・発行 塩治地区社会福祉協議会 事務所 塩治コミュニティセンター内 TEL 21-0248
 塩治社協ホームページ <http://enyashakyo.skr.jp/>

見てみて！大きなさつまいもがたくさん採れたよ！

— 外国籍の子どもたちが“いも掘り体験” —



青少年育成部では外国籍の子どもたちが日本の暮らしに親しみを持ってもらえるよう、日本の伝統遊びや食文化体験講座をこれまで行ってきましたが、昨年はコロナウイルスで行事を中止しました。

今年は感染防止に配慮したうえで、さつまいもの植付けから収穫、調理までを体験する食育イベントとして行うことにしました。

10月2日(土)、外国籍の子どもたちが通う3つの学童クラブ、「わくわくこどもクラブ」、「わくわく児童クラブ」、「塩治地区放課後子ども教室」から、25人の子どもたちが妙伝寺の畑に集まり、子どもたちが楽しみにしていた「さつまいもの収穫」です。

今年は猛暑と長雨が続いたことから、いもは土の深いところで育っており、子どもがつるを引っ張ったくらいではびくともしません。大人の力を借りて、子どもたちは大きなさつまいもをたくさん掘りました。

また、東京オリンピック・パラリンピックの年、いちばん大きないもを掘った子どもを表彰することに……。本格的に表彰台と金・銀・銅のメダルを準備し、「いちばん大きなおいもは788グラム、あいなちゃんか金メダルです！」「続いて銀メダルと銅メダル……」、表彰台に上がった子どもたちはちょっと照れくさそうでした。いもでいっぱい袋を手へ帰っていく子どもたちのうしろ姿を見送りながら、今日が良い思い出になり、家族にもたくさん話してあげてほしい……。そう思いました。

大盛会のいも掘りイベント、今回も20人のボランティアと保護者の皆さん、子どもたちを引率していただいた児童クラブの皆さん、表彰式の運営に協力いただいた島根大学の皆さんには感謝いたします。また畑を快くお貸しいただいた日蓮本宗妙伝寺の田中英潤住職に改めてお礼申し上げます。

(青少年育成部 布野達也)



令和3年度 地域支え合いフォーラム

10月16日(土)、スサノオホールにおいて、「令和3年度 地域支え合いフォーラム」が開催され、地域支え合いについての講演や出雲市の事例紹介等がありました。

講演では「コロナ禍で考える“支え合い”の地域づくり」と題して、ご近所福祉クリエイター 酒井保氏により、地域での支え合いがいかに大切か、いろいろな事例紹介もあり、地域の中で解決できる組織づくりが重要、ふれあいサロンがいかに大事か、その有用性、有効性について話されました。

出雲市社会福祉協議会からは「あなたのまちに出向きます！地域での支え合いのススメ」と題して、地域活動の進め方の話や、朝山お助けマン互助会の実際に行われている事例の紹介がありました。

講演資料の一部を以下に紹介します。

日本の現状は・・・

◆高齢者の増加

100歳以上の高齢者 86,000人超で過去最多！
日本人の平均寿命が毎年更新！

2020年 男性 81.64歳、女性 87.74歳

◆2025年問題、後期高齢者が2200万人を超す！

国民の3人に1人が65歳以上

5人に1人が後期高齢者

65歳以上5人に1人が認知症！？



では、健康で長生きするためには「何」が必要か？

◆「つながり」「人間関係」

「地域支え合い」が大切！



コロナとフレイル

◆東京都医師会からの警鐘

「コロナを恐れる高齢者が過剰に自粛することで、フレイル（虚弱）が起きるリスクがある。ウイズコロナ社会のなかで「過度の自粛を生む思い込みや誤解による不安を軽減し、出掛けたいようになるようにそっと後押しすることが必要」

◆コロナ禍で外出頻度が減る

⇒ 社会性が低下 ⇒ 運動機能が低下へ

◆ひとりで食事をしていると・・・

⇒ 2.7倍 うつ病になりやすい

◆地域コミュニティ活動は

フレイル予防につながる

(暮らしづくり + 体操 = 健康寿命)



令和3年度 ふれあいサロン研修会

11月17日(水)、朱鷺会館において、「令和3年度 ふれあいサロン研修会 ～ふれあいサロンの魅力を再発見～」が開催され、塩冶社協からは、周藤祥三・坂本正人・杉原弘江・高野芳男・岸忠明の5名の理事が参加しました。

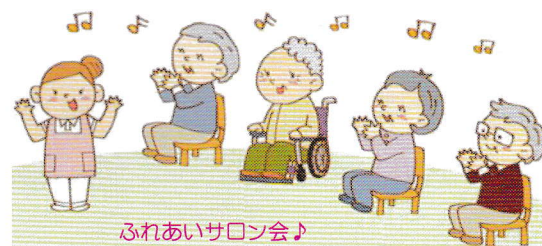
島根大学名誉教授の塩飽邦憲氏による「コロナ禍でのふれあいサロン活動」と題した講演があり、具体的に詳しく説明を受けました。

- ・新型コロナ感染の現状について
- ・新規感染者の推移やワクチン接種率
- ・ブレイクスルー感染（2回接種後の感染）の症状についての説明
- ・今後の見通しとして、終息せず共存も余儀ない
- ・今冬には第6波が到来、再拡大の予測・・・等

コロナ禍による健康への影響として

- ・体力低下や不活発な生活による弊害が生じる
- ・筋肉量・筋力の低下、老化現象が生じる
- ・健康寿命の短縮
- ・転倒事故や閉じこもりを誘発・・・等

これらに対する対応策として、ふれあいサロンの果たす役割がいかに大切か、詳しく説明を受けました。



私たちはコロナ禍を恐れ、ふれあいサロンの開催に消極的で尻込み状態となっていますが、コロナの終息は望めず、共存しか無いということ。コロナをよく知り、対策を十分にとって行えば、ふれあいサロンの効果は大なるものと改めて痛感し、サロンの重要性について考えさせられました。

続いて、出雲市社会福祉協議会地域福祉課より、この状況で活動しているサロンの事例を紹介されましたが、厳しい中で取り組みされていること、たいへん参考になりました。

最後に「コロナ禍での新たな取り組み、活動を続けるための工夫」をテーマにディスカッションを行い、「サロン活動をしたいがコロナが怖い。サロンについて指針を示して。対策としてマスク、体温測定、参加者を半分に分ける。お茶は一人ずつペットボトルに、湯飲みは紙コップにした。フレイル予防につながるよう努力する。」といった意見があり、改めて考えさせられました。

出雲二中の生徒とコラボレーション 公園の美化啓発看板の点検を実施しました！

11月4日（木）、今年度2回目の公園の美化啓発看板の点検を二中の生徒たちと実施しました。

この活動は二中の先生より、特別支援学級の生徒の課外授業として、塩冶社協の活動に参加することが出来ないかとの問い合わせがあったことから行ったものです。何度か打合せを行い、二中から徒歩で廻れる範囲の公園8カ所の看板を点検することにしました。

点検当日、二中の玄関先で公園点検の手順や巡回中の交通事故等に注意して回ることを確認し、出発しました。せっかくなので、歩きながらゴミ拾いも行います。



生徒たちに聞くといつも二中近辺を歩き、ゴミ拾いも行っているとか・・・それでも道路にはいくつもゴミが落ちています。一番多かったのは「タバコの吸い殻」です。なんでこんなに落ちているのだろうと、みんなで話しながら公園巡りを行いました。

公園に着くと目的の看板を探し、生徒たちは直ぐに作業に取りかかります。点検作業に併せて公園内のゴミ拾いも行いました。

ここでも「タバコの吸い殻」が多いことに「なぜだろう・・・大人になってもたばこは吸わないことだね」といった話をしました。

点検作業では、看板清掃やシールの貼り付け具合も確認、取付け金具が緩んでいる場合はペンチで締め直しを行います。その後、点検結果を点検簿にメモをします。



8カ所の公園点検でしたが、途中で雨宿りもしながらの約4kmのウォーキングになり、いつもの課外授業とは違って、生徒たちも疲れた様子でした。ですが、生徒たちからは「楽しかった、面白かった」との意見もあり、いい時間が過ごせたようです。

先生から「来年度も同様に実施しましょう」とのお話もいただきました。生徒たちと共に行動することは少し心配もありましたが、先生方のご指導もあり、安全に点検作業が行えました。（広報広聴部）

出雲二中美術部の「流木インスタレーション」



（塩冶コミセンの玄関に飾られたオブジェ）

コミセン玄関に出雲二中美術部で制作されたオブジェが飾られていますので、紹介します。

部活動の一環として、鳥取県の大山寺や多伎町の河川で流木を採集し、オブジェとして作ったものです。

川で採集した流木を丁寧に研磨し、流木の形状を見つづ、色鮮やかにアクリル絵の具でカラーリング、オブジェとして組み立ててあります。展示する空間に合わせてイメージを創り、それを流木で表現したものです。

色の組み合わせと独創的な形状で、いつものコミセンの「堅い玄関先」をととても明るくしてくれました。



※インスタレーションとは美術の表現手法のひとつ、オブジェをおいて空間全体を作品として表現するものです。

ご寄贈御礼

このたび、次のみなさま方から塩冶地区社会福祉協議会に対し、香典返し及びご寄附をいただきました。

ご厚志に深く感謝いたしますとともに、故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。浄財は、塩冶地区の福祉事業のために使わせていただきます。

今後とも、ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。
(7月1日から11月30日まで) 敬称略

香典返し

寄附者名	故人名	区域名	寄附金額

※ 掲載欄の — は、掲載を希望されない方

***** 編集後記 *****

塩冶地区の公園を巡視しながら気がついたのですが、昔に比べて田んぼが少なくなり、住宅が増加しています。コミセンの玄関ロビーにある昭和22年の航空写真を見ると塩冶のほとんどは田んぼでした。今年の市議会選挙、ある候補の街頭演説で「塩冶地区は幼稚園から大学まであり、住みやすくて人口も増加している。」という話がありました。医大建設を契機に人口が増加したにもかかわらず町内会に加入する人は少なく、会員の高齢化が進むばかりです。地方自治の原点である町内会を若年層も含めた活性化が必要な時期ではないでしょうか。

寒さが一段と厳しい季節になりました。今のところコロナも減少しつつあります。来年こそは良い年であるようにと願います。
(理事 岸 忠明)

住宅火災 に注意しましょう!



冬の到来と共に暖房が欠かせなくなって来ました。空気も乾燥し、火災の発生しやすい時季です。

住宅火災による死者の約7割が高齢者とも言われます。冬に向けて住宅火災に注意しましょう!

毎日の暮らしのなかで ちょっとした注意
『火災予防対策』 がとても大切です。

住宅火災の実態から、高齢者の死者が多い火災原因は・・・

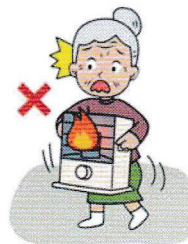
■たばこの火災

- 吸い殻に注意! (吸い殻は水に)
- いつも決まった場所で吸う
- 歩きタバコはしない!
- 寝たばこは絶対にしない!



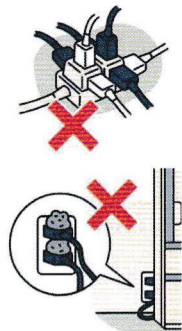
■ストーブの火災

- ストーブの近くに燃えやすいものは置かない!
- ストーブの前はいつも整理整頓
- 誤った使い方に注意!
(火をつけたまま動かさない
火をつけたまま給油しない
給油は確実に火を消してから)



■電気器具類の火災

- たこ足配線をしない!
- コードを引っ張って抜かない!
- 冷蔵庫やテレビのプラグはこまめに掃除する
- 電気コードの上に物を置かない!



■こんろの火災

- そばを離れる時は火を消す
- 燃えやすいものをこんろのそばに置かない
- 天ぷら火災に注意!



※日本消防検定協会の冊子から一部を転載

愛友会のみなさまへ

コロナ禍の中、行事の見合わせが続いており、今回の「愛友会だより」はお休みさせていただきます。
(障がい者福祉部)

この地区社協便り「出雲市社会福祉協議会の会費、寄付金、共同募金を財源とした助成金」を財源の一部としています。